スーパーマーケット販売統計調査資料

2021 年 12 月実績 速報版（パネル 270）
11 月実績 確報版（パネル 270）
2021 年 年間集計 速報版

（2022 年 1 月 21 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：前月販売実績を速報値として公表　確報版：速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較　既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、錬製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2022年1月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2021年12月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）	2019年同月比（全店）	2019年同月比（既存店）
総売上高	112,422,724	100.0%	99.2%	98.0%	104.3%	101.6%
食品合計	101,469,719	90.3%	99.2%	98.0%	104.5%	101.9%
生鮮３部門合計	39,018,167	34.7%	98.6%	97.4%	104.8%	101.7%
青果	14,567,278	13.0%	99.7%	98.6%	103.5%	100.3%
水産	11,075,452	9.9%	98.8%	97.4%	104.9%	101.9%
畜産	13,375,437	11.9%	97.4%	96.0%	106.1%	103.2%
惣菜	11,828,374	10.5%	104.2%	102.4%	106.5%	103.2%
日配	21,614,999	19.2%	99.0%	98.0%	104.7%	102.2%
一般食品	29,008,178	25.8%	98.3%	97.3%	103.7%	101.4%
非食品	8,093,715	7.2%	97.1%	95.4%	98.9%	98.0%
その他	2,859,331	2.5%	95.7%	96.8%	90.9%	95.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	16,020,263	43	99.6%	99.0%
関東地方	40,806,256	73	99.4%	97.8%
中部地方	13,791,180	53	99.7%	98.1%
近畿地方	24,481,385	44	97.5%	96.9%
中国・四国地方	11,250,249	34	99.4%	98.1%
九州・沖縄地方	6,073,390	23	102.2%	102.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	760,405	46	95.4%	95.4%
4～10店舗	5,099,488	82	95.5%	95.4%
11～25店舗	11,424,804	53	98.6%	97.9%
26～50店舗	19,737,039	44	99.0%	97.9%
51店舗以上	75,400,987	45	99.5%	98.2%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	110,025,697
総店舗数（店舗）	8,292	店舗平均月商（万円）	13,558
総売場面積（㎡）	13,810,723	売場１㎡あたり売上高（万円）	8.1

※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入
※前々年比集計（既存店）：前々年比と当月で保有店舗数に変化のない企業を対象

2022年1月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2021年11月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	92,486,446	100.0%	99.5%	98.3%
食品合計	83,257,690	90.0%	99.6%	98.2%
生鮮３部門合計	31,352,489	33.9%	98.1%	96.7%
青果	12,124,226	13.1%	97.7%	96.4%
水産	7,887,328	8.5%	98.6%	97.1%
畜産	11,340,935	12.3%	98.2%	96.7%
惣菜	9,501,492	10.3%	104.1%	102.3%
日配	18,269,252	19.8%	99.9%	98.6%
一般食品	24,134,457	26.1%	99.5%	98.3%
非食品	6,846,631	7.4%	98.7%	97.4%
その他	2,382,170	2.6%	95.6%	96.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,316,447	43	97.1%	96.5%
関東地方	33,618,107	73	100.2%	98.3%
中部地方	11,125,673	53	99.2%	97.7%
近畿地方	21,420,358	44	99.3%	98.6%
中国・四国地方	9,213,446	34	99.9%	97.9%
九州・沖縄地方	4,792,416	23	102.5%	103.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	604,215	46	95.2%	95.1%
4～10店舗	4,210,887	82	95.2%	95.0%
11～25店舗	8,635,380	52	99.0%	98.4%
26～50店舗	16,209,679	45	98.6%	97.5%
51店舗以上	62,826,285	45	100.1%	98.7%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	90,494,360
総店舗数（店舗）	8,299	店舗平均月商（万円）	11,144
総売場面積（㎡）	13,796,921	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2022年1月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2021年 年間実績（パネル270）確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年比（全店）	前年比（既存店）
総売上高	1,166,315,381	100.0%	99.6%	98.7%
食品合計	1,055,624,954	90.5%	99.9%	98.9%
生鮮３部門合計	402,493,575	34.5%	99.0%	97.9%
青果	161,132,565	13.8%	98.5%	97.6%
水産	103,233,602	8.9%	100.2%	99.2%
畜産	138,127,407	11.8%	98.6%	97.5%
惣菜	122,467,403	10.5%	105.3%	104.0%
日配	231,522,966	19.9%	99.7%	98.6%
一般食品	299,141,010	25.6%	99.3%	98.5%
非食品	78,541,524	6.7%	95.1%	94.6%
その他	32,148,903	2.8%	97.1%	97.6%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比（全店）	前年比（既存店）
北海道・東北地方	158,377,929	43	100.0%	99.6%
関東地方	428,414,540	73	99.6%	98.7%
中部地方	141,371,064	53	99.7%	98.2%
近畿地方	262,313,567	44	98.9%	98.2%
中国・四国地方	116,413,551	34	100.4%	98.8%
九州・沖縄地方	59,424,730	23	99.1%	99.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年比（全店）	前年比（既存店）
1～3店舗	7,585,189	46	94.5%	94.6%
4～10店舗	52,926,411	81	95.2%	95.3%
11～25店舗	116,892,338	54	99.1%	98.6%
26～50店舗	199,763,552	44	99.2%	98.4%
51店舗以上	789,147,890	45	100.0%	99.0%

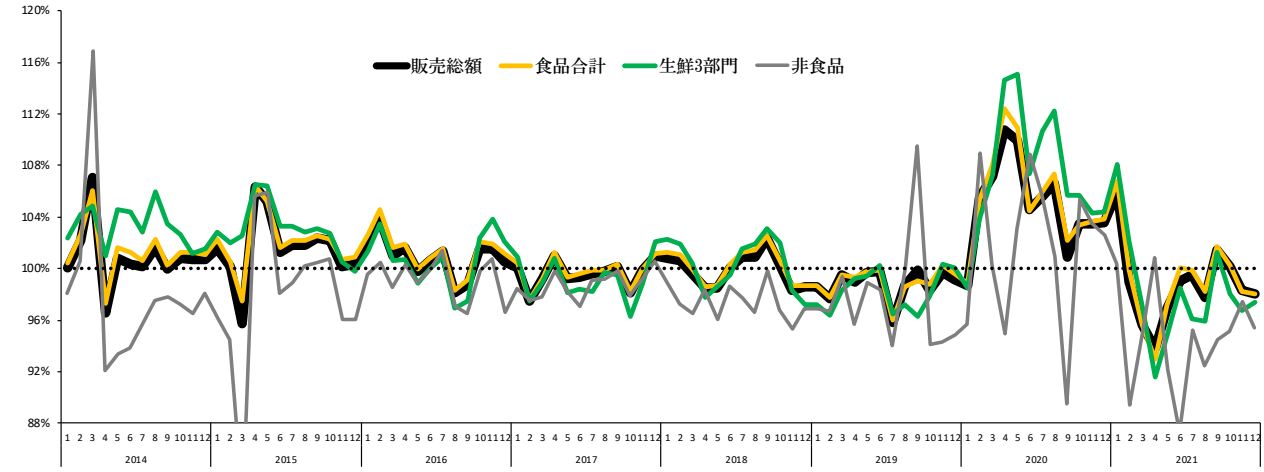
※保有店舗数カテゴリーは2021年1月時点での保有店舗数による分類

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,143,972,597

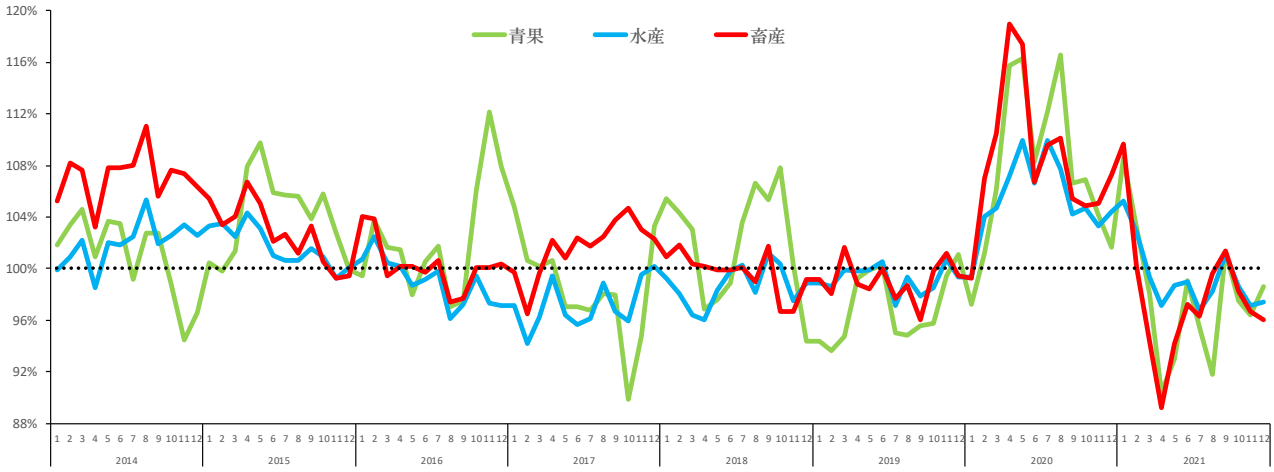
※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査　前年同月比(既存店)推移　2014年1月～

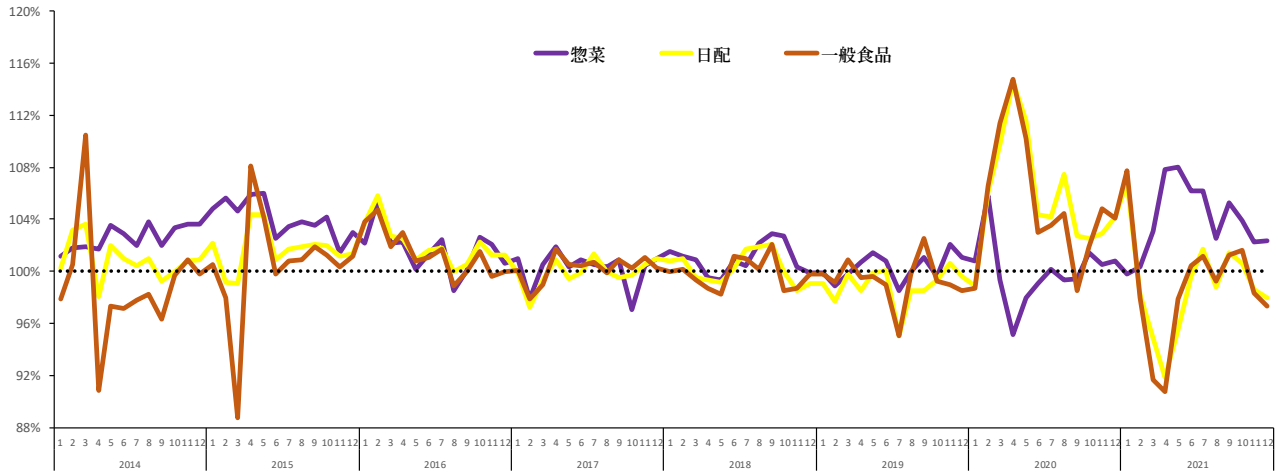
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年12月実績は速報版

2021年12月エリア別気候状況

気温の特徴：寒暖の変動が大きかった

上旬：北日本でかなり高く、東日本では高かった。

中旬：北・東・西日本で高かった。

下旬：北日本でかなり低く、東日本で低かった。

2020年12月との比較：上旬は北日本で高く、中旬は全国的に高く、下旬は北日本と東日本で低かった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2021年12月			2020年12月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	2.2	1.5	-2.2	0.7	-1.9	-0.6	1.5	3.4	-1.6
太平洋側	2.6	1.4	-1.8	0.3	-2.1	-0.4	2.3	3.5	-1.4
東日本 日本海側	0.6	1.0	-1.2	0.8	-1.4	0.1	-0.2	2.4	-1.3
太平洋側	1.0	0.4	-0.6	0.5	-0.9	0.4	0.5	1.3	-1.0
西日本 日本海側	0.1	0.8	-0.6	-0.1	-1.7	-0.3	0.2	2.5	-0.3
太平洋側	-0.2	0.7	-0.5	0.5	-1.1	-0.3	-0.7	1.8	-0.2
沖縄・奄美	-0.5	0.2	0.1	0.4	-0.6	0.5	-0.9	0.8	-0.4

平年差
＋2℃以上　＋1℃以上　−2℃以上　−1℃以上

前年差
＋2℃以上　＋1℃以上　−2℃以上　−1℃以上

日照時間の特徴：西日本太平洋側でかなり多かった

上旬：北日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。

中旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。

下旬：北・東日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美ではかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。

2020年12月との比較：上旬は北日本日本海側と沖縄・奄美で多く、中旬は東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2021年12月			2020年12月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	190	63	82	77	80	77	113	-17	5
太平洋側	102	91	113	101	106	102	1	-15	11
東日本 日本海側	109	100	80	121	43	85	-12	57	-5
太平洋側	96	120	114	109	101	104	-13	19	10
西日本 日本海側	124	91	101	143	99	108	-19	-8	-7
太平洋側	128	120	102	128	108	111	0	12	-9
沖縄・奄美	154	204	50	8	61	62	146	143	-12

平年差
平年比150%以上　平年比125%～149%　平年比50%以下　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　＋25～49%　−50%以下　−25～-49%

降水量の特徴：北日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多かった

上旬：北・東日本太平洋側でかなり多く、北・東日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なく、西日本では少なかった。

中旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本太平洋側で少なかった。

下旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、西日本太平洋側で少なかった。

2020年12月との比較：上旬は北・東日本太平洋側で多く、中旬は東日本太平洋側と西日本で多く、下旬は西日本で少なかった

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2021年12月			2020年12月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	110	140	144	56	130	96	54	10	48
太平洋側	201	68	62	13	43	49	188	25	13
東日本 日本海側	112	118	129	59	149	141	53	-31	-12
太平洋側	350	133	37	12	19	42	338	114	-5
西日本 日本海側	46	137	71	11	70	152	35	67	-81
太平洋側	49	133	21	1	4	115	48	129	-94
沖縄・奄美	12	14	109	296	81	145	-284	-67	-36

平年差
平年比150%以上　平年比125%～149%　平年比50%以下　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　＋25～49%　−50%以下　−25～-49%

気象庁報道資料「12月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1991年～2020年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2022年1月調査結果（12月実績）
（2022年1月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- 前年同月を100とした当月の値を調査　※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

1 月調査（12 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに小幅に悪化

12 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は、前月から −0.5 の 39.2、見通し判断は前月から-1.6 の 34.1 となり、ともに前月から小幅な悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI ともに前月からマイナス幅をわずかに縮小した。畜産相場や水産相場の高値傾向による生鮮品仕入原価 DI、原材料価格高騰による値上げで食品仕入原価 DI がいずれも二桁プラス域で高止まりしている。それに伴い販売価格 DI や客単価 DI にも上昇傾向がみられた。

カテゴリー動向調査では、感染症の落ち着きによる外出増加、内食需要減少の影響を受け休日の客数減なども見られたが、クリスマスや年末商戦は好調に推移し、好不調まちまちの結果となった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、すべての景況感 DI が低水準で推移しているが、今月も小幅な変化にとどまっており、これまでのトレンドに大きな変化はみられていない。（長期傾向については P11 参照）

年末までは感染症は落ち着いた状況が続いていたが、年明けから再び増加に転じており、内食需要が高まる可能性もある一方で、世界的な物価高騰の影響が国内にも波及しており、ガソリンや灯油の価格高騰に寒波も押し寄せ、消費者心理が上向きになる状況にはほど遠い。感染症の拡大状況によっては、生産や物流への影響、そして店舗での人員不足も懸念され、営業継続のための判断が迫られるケースも出てくる可能性がある。食のライフライン維持のため、食品産業が一体となって乗り越えたい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３９．２（−０．５）	当月：４１．３（+０．８）	当月：４０．８（+０．６）	当月：４２．２（+０．２）
前月：３９．７	前月：４０．５	前月：４０．２	前月：４２．０

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３４．１（−１．６）	当月：３８．２（−１．２）	当月：３８．６（+０．３）	当月：４１．４（+０．４）
前月：３５．７	前月：３９．４	前月：３８．３	前月：４１．０

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI	
当月：−１２．２（+３．２）	当月：４．１（+６．１）	当月：−１７．４（−３．０）	
前月：−１５．４	前月：−２．０	前月：−１４．４	
収益DI	**販売価格DI**	**生鮮品仕入原価DI**	**食品仕入原価DI**
当月：−１４．５（+１．３）	当月：８．０（+３．３）	当月：１１．８（+０．４）	当月：１１．４（−２．７）
前月：−１５．８	前月：４．７	前月：１１．４	前月：１４．１

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI	
当月：−１１．０（+８．８）	当月：−１２．３（+１．２）	当月：−１７．６（−０．９）	
前月：−１９．８	前月：−１３．５	前月：−１６．７	
惣菜DI	**日配DI**	**一般食品DI**	**非食品DI**
当月：８．３（+１．２）	当月：−１１．６（−３．１）	当月：−１５．７（−５．９）	当月：−１７．４（−２．８）
前月：７．１	前月：−８．５	前月：−９．８	前月：−１４．６

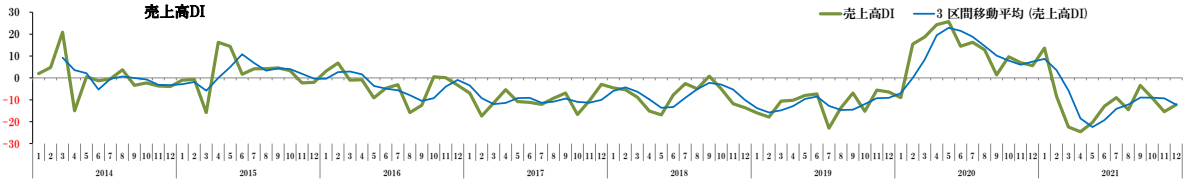
※DI 値は前年同月との比較／（）内は前月 DI からの変化

結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2014 年 1 月～）

1．　売上高 DI

マイナス幅縮小も二桁マイナスが続く

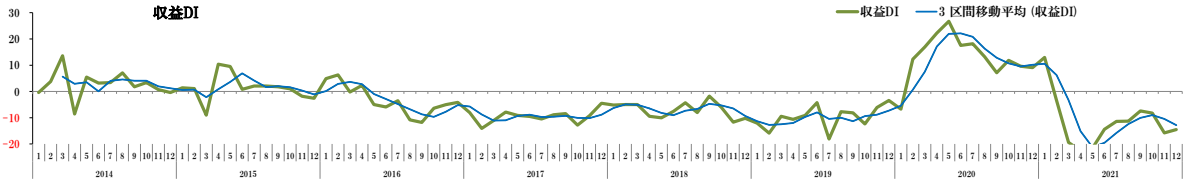
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	17.2	44.4	24.4	10.6	3.3	-15.4
売上高（当月）	**14.6**	**41.1**	**25.3**	**16.5**	**2.5**	**-12.2**



2．　収益 DI

ほぼ前月と同水準で二桁マイナス

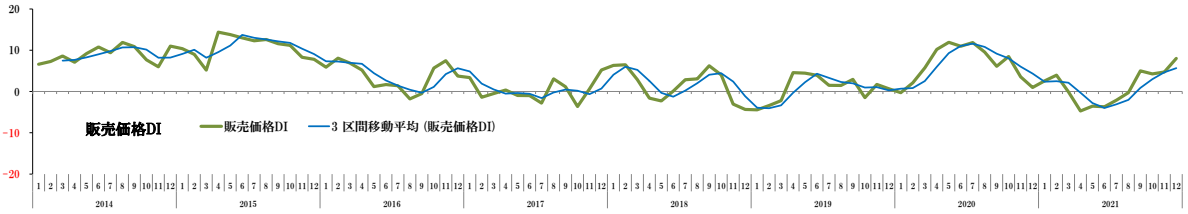
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	17.0	43.2	27.3	10.8	1.7	-15.8
収益（当月）	**18.1**	**38.7**	**28.4**	**12.9**	**1.9**	**-14.5**



3．　販売価格 DI

上昇傾向続き 4 か月連続のプラス

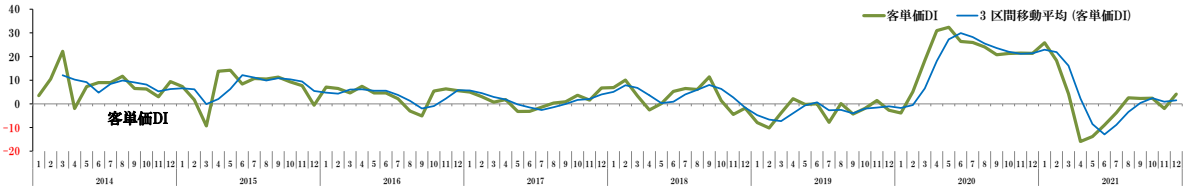
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	10.6	60.0	29.4	0.0	4.7
販売価格（当月）	**0.6**	**6.4**	**53.2**	**39.7**	**0.0**	**8.0**



4．　客単価 DI

前月から上昇しプラス転換

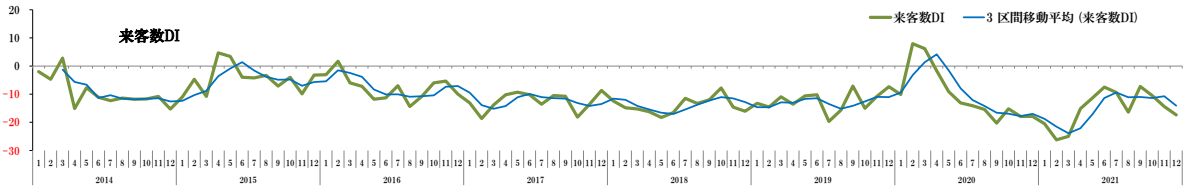
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	30.2	45.3	22.3	1.1	-2.0
客単価（当月）	**1.9**	**19.6**	**40.5**	**36.1**	**1.9**	**4.1**



5. 来客数 DI

ややマイナス幅拡大、二桁マイナスで推移

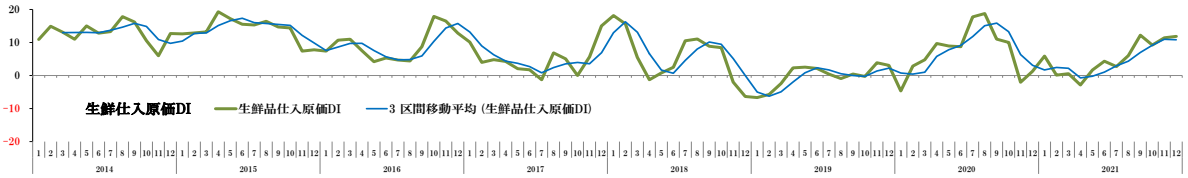
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	14.5	43.6	28.5	11.7	1.7	-14.4
来客数（当月）	**15.3**	**51.0**	**22.9**	**9.6**	**1.3**	**-17.4**



6. 生鮮仕入原価 DI

二桁プラス圏で推移

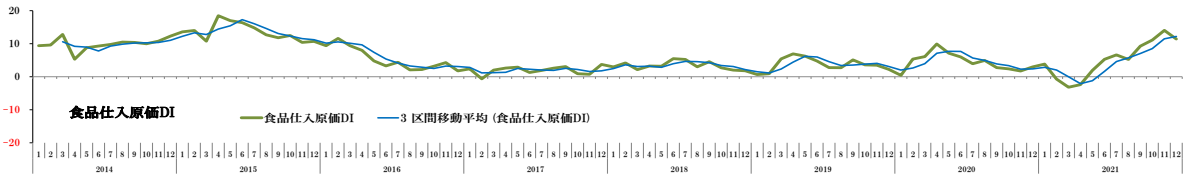
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	1.1	12.6	34.9	42.3	9.1	11.4
生鮮仕入原価（当月）	**1.3**	**9.9**	**34.9**	**48.0**	**5.9**	**11.8**



7. 食品仕入原価 DI

二桁プラス圏で推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	2.3	5.1	34.7	50.0	8.0	14.1
食品仕入原価（当月）	**0.7**	**11.8**	**34.6**	**47.1**	**5.9**	**11.4**

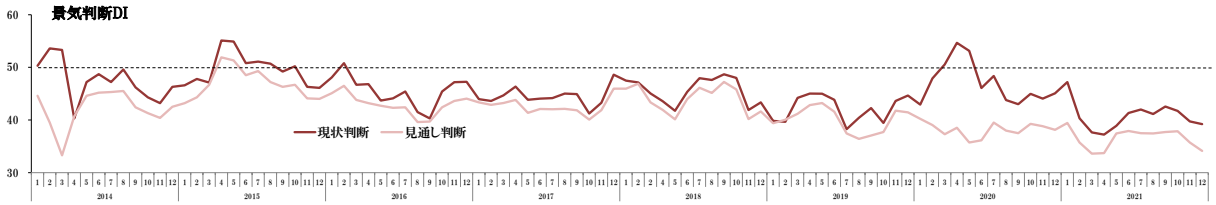


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断ともに小幅に悪化

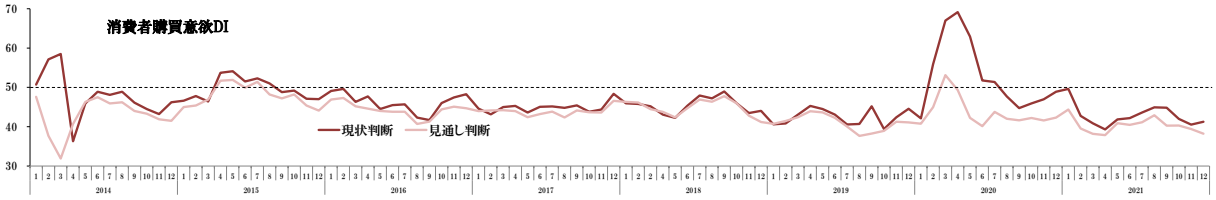
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	7.2	34.4	52.2	4.4	1.7	39.7
【現状】景気判断（当月）	**5.0**	**40.6**	**47.5**	**6.3**	**0.6**	**39.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	6.6	47.8	41.8	3.8	0.0	35.7
【見通し】景気判断（当月）	**8.2**	**50.3**	**38.4**	**3.1**	**0.0**	**34.1**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は小幅に悪化

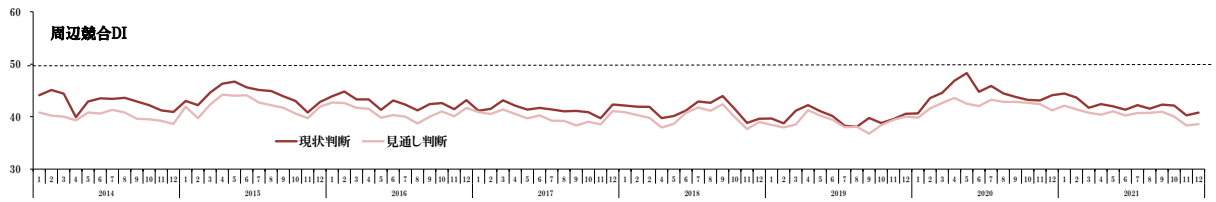
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	3.8	35.7	55.5	4.4	0.5	40.5
【現状】購買意欲（当月）	**3.1**	**37.5**	**51.3**	**7.5**	**0.6**	**41.3**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	2.2	42.3	51.1	4.4	0.0	39.4
【見通し】購買意欲（当月）	**2.5**	**47.2**	**45.9**	**3.8**	**0.6**	**38.2**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに前月と同水準

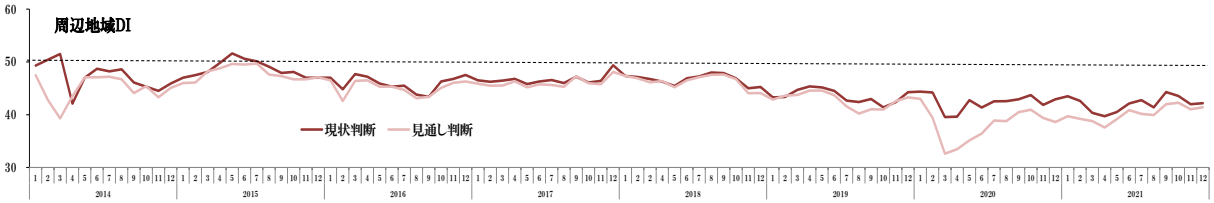
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.9	31.3	61.5	2.2	0.0	40.2
【現状】競合状況（当月）	**5.6**	**26.9**	**66.3**	**1.3**	**0.0**	**40.8**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	6.6	35.2	56.6	1.6	0.0	38.3
【見通し】競合状況（当月）	**8.1**	**30.6**	**60.0**	**1.3**	**0.0**	**38.6**



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断ともに前月と同水準

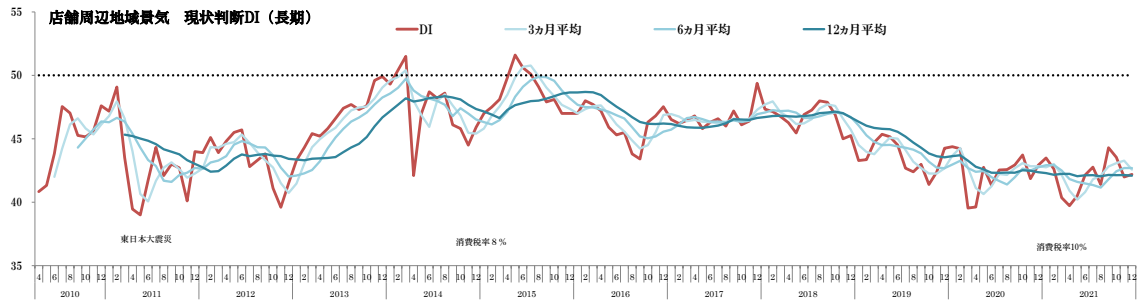
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	3.3	29.3	63.5	3.9	0.0	42.0
【現状】地域景気（当月）	**2.5**	**30.6**	**62.5**	**4.4**	**0.0**	**42.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	2.2	35.4	58.6	3.9	0.0	41.0
【見通し】地域景気（当月）	**1.9**	**34.4**	**60.0**	**3.8**	**0.0**	**41.4**

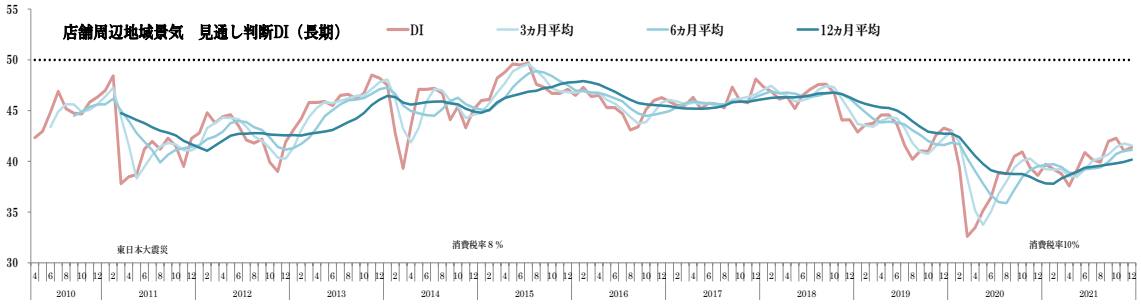


・中核店舗周辺地域景気判断 DI　長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後 15 ヵ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。20 年 2 月に大幅に悪化したが、5 月から 10 月まで持ち直しの動きが続いた。その後 21 年 2 月からは悪化するも、5 月以降は小幅ながら改善傾向が続いている。その後、9 月に大幅な上昇をみせ、各移動平均線を上抜きし、上昇トレンド入りを示唆している。

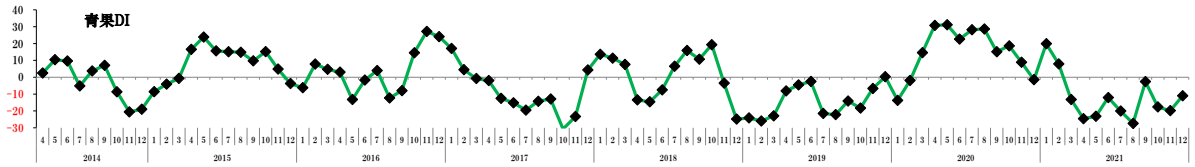




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-11.0（不調）

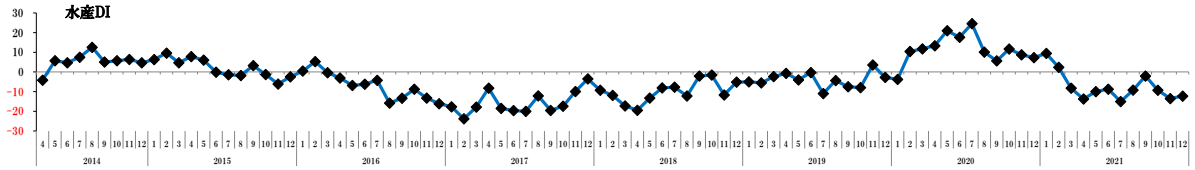
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	21.8	48.3	18.4	10.3	1.1	-19.8
青果（当月）	**10.5**	**44.7**	**27.0**	**13.8**	**3.9**	**-11.0**



感染の落ち着きにより内食需要に低下傾向がみられたものの、年末商戦は地方で帰省の回復を背景に好調に推移した店舗が多かった。飲食店など業務用需要も回復傾向が続いている。タマネギやじゃがいもなど土物類は相場高で好調となったが、葉物類は相場安で単価が下落し伸び悩んだ。前年に比べ気温が高く推移した地域では白菜、菌類をはじめ鍋物関連の動きが悪かった。国産果物ではみかんは好調に推移したが、イチゴは好不調が分かれ、柿やりんごは不調とするコメントが多かった。

2.　水産 DI：-12.3（不調）

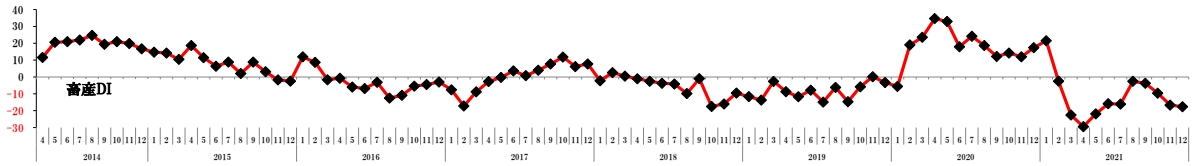
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	12.1	50.0	23.0	9.8	5.2	-13.5
水産（当月）	**12.6**	**45.7**	**24.5**	**12.6**	**4.6**	**-12.3**



感染の落ち着きにより、内食需要は低下傾向がみられたものの、年末商戦は帰省の回復も背景に刺身類、大型パックなどが好調に推移した。生魚の入荷が不安定なことに加え、漁船の燃料高騰、輸入品の高騰などもあり相場高となっており、販売に苦労した店舗が多かった。カニや輸入魚介類（鮭・えび・タコなど）や冷凍加工品、珍味の価格上昇が目立ち、販売数量を落とした店舗が多く、前年との気温差によりタラや牡蠣など鍋関連も動きが悪かった。ブリをはじめとする一部の魚種には、前年の農林水産省・緊急対策事業による補助からの反動減もみられた。

3.　畜産 DI：-17.6（不調）

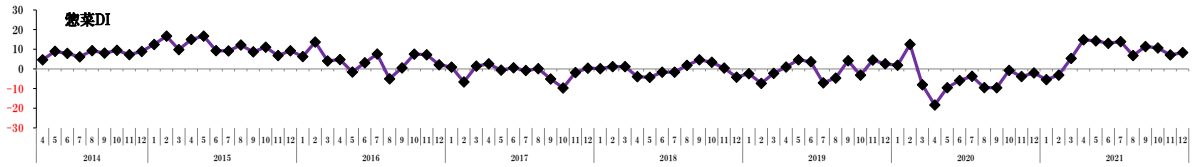
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	18.4	44.8	25.9	6.9	4.0	-16.7
畜産（当月）	**22.9**	**41.2**	**20.9**	**13.7**	**1.3**	**-17.6**



内食需要の落ち着き、販売数量の減少傾向が続いているが、年末商戦では和牛など高単価商品や大型パック中心に好調に推移した。月を通じて国内産、輸入品共に価格高騰が続いており、販促も打ちにくく、伸び悩んだ。前年より気温が高く推移した地域では、すき焼きやしゃぶしゃぶ、鍋関連商材が低調となった。鶏肉は、今年は鳥インフルエンザの風評等の影響が少なく、好調に推移した。ハムなどギフトは不振となった店舗が多い。

4.　惣菜 DI：8.3（やや好調）

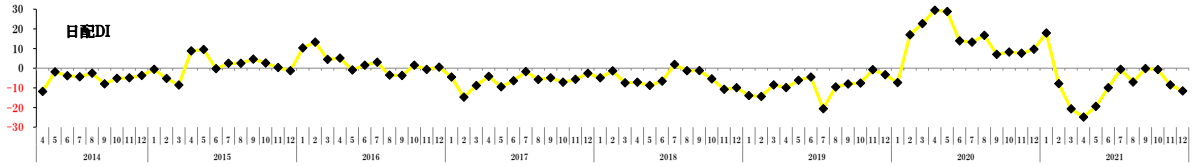
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.0	18.3	36.1	32.5	10.1	7.1
惣菜（当月）	**4.0**	**17.2**	**31.8**	**35.8**	**11.3**	**8.3**



クリスマスが週末と重なり、チキンなどの販売が大幅に伸長した。また帰省客の回復により、年末商戦では寿司やオードブルなどの大型パック、おせちの予約販売が好調となった。都市部では通勤再開などで夕方以降の人流が増加し、夜間売上の回復傾向も続く。寿司類は引き続き好調、揚物類も好調とのコメントが多い。近場への行楽や小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移。家飲みの、焼鳥やつまみ類も好調が継続。

5.　日配 DI：-11.6（不調）

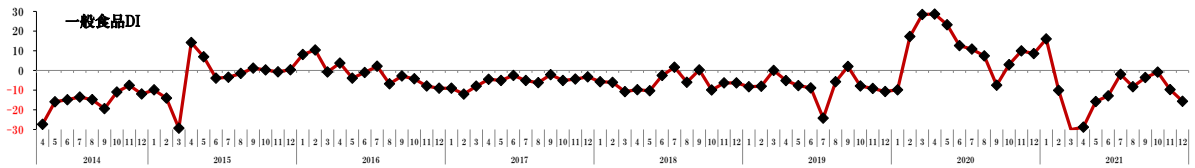
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.8	37.4	35.6	11.5	5.7	-8.5
日配（当月）	**11.1**	**41.2**	**32.7**	**13.1**	**2.0**	**-11.6**



前年に比べ内食需要に落ち着きがみられ、全般的に買上点数が伸び悩んだ。利便性が定着した冷凍食品や、デザート類は引き続き好調に推移した。和日配は、年末商戦は好調に推移したものの、前半高めの気温の影響でこんにゃく、練物、豆腐など鍋物関連が伸び悩んだ。漬物は青果相場安の影響もあり不調。アイスは前年を超過したが、乳製品は特需の反動減がみられた。 卵は相場高が続き単価が大幅に上昇した。

6.　一般食品：-15.7（不調）

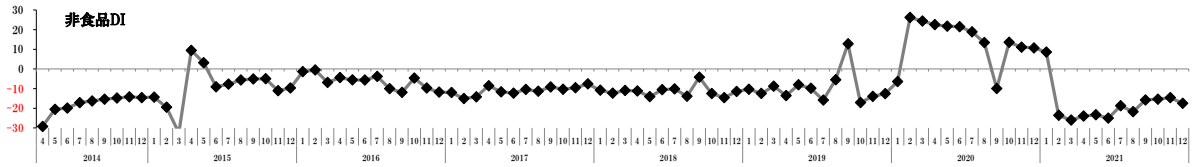
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.9	40.8	29.3	14.4	4.6	-9.8
一般食品（当月）	**17.0**	**46.4**	**19.6**	**16.3**	**0.7**	**-15.7**



内食需要に落ち着きがみられ、保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など）は伸び悩んだ。値上げのあった油や調味料は単価上昇となり好調に推移した。上旬は気温が高く推移したことで水、飲料が好調、反面鍋関連やホットメニューは伸び悩んだ。家飲み需要にもやや落ち着きがみられており、酒類や珍味などのつまみ類は伸び悩んだ。米類は相場安により売上を確保できなかった。飲食店などの業務用需要に回復傾向が続いている。ギフトは低調となった。

7． 非食品 DI：-17.4（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	20.8	34.1	30.6	11.6	2.9	-14.6
非食品（当月）	**23.5**	**36.2**	**28.2**	**10.7**	**1.3**	**-17.4**



前年に比べ月前半の気温が高く、冬物商材の動きが悪かった。マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は前年からの反動が続いている。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品についても反動減が大きい。日用雑貨、家庭雑貨には回復傾向がみられた。値上げのあったタバコ類は前年並みに推移した。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20　　好調： 20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　： 0 ～ -10　　不調：-10 ～ -20　　かなり不調： -20～

2022 年 1 月調査（12 月実績）キーワード TOP3

1． 年末商戦、クリスマス商戦好調
2． 前年に比べ内食需要減少
3． 前年に比べ気温が高い

（参考）2021 年 1 月調査（12 月実績）キーワード TOP3

1． 帰省客減少（年末は自宅で過ごす）
2． 気温低下（平年以下、前年暖冬の反動）
3． 青果相場安

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

12 月実績速報版　　160 社
11 月実績確報版　　182 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp